

TBSの歴史。それは捏造と歪曲とやらせの歴史

- 1990 「潜入！ヤクザ二四時追跡ドキュメント」でやらせ、
- 1995 松本サリン事件の第一通報者を犯人視するメディアリンチ、
- 1996 TBSのオウム・ビデオ問題 (下記参照)
- 1999 TBS報道制作局長の痴漢事件
- TBS報道局社会部記者のビデオ盗撮目的の住居侵入容疑
- TBS社員らの乱交パーティー疑惑
- TBSのNEWS23で「東芝事件」に関する暴言、
- 2003 やらせ報道のTBS「ガチンコ」打ち切り
- 2003 玄界灘周辺おける韓国船の3連続衝突事件
(もし、最初に適切な報道がなされていたら、第2、第3の事件は防げたかもしれない・・・)

そして・・・

2003/11 TBSサンデーモーニング 「石原都知事発言を歪曲捏造」事件

石原東京都知事が「救う会東京」の集会で日韓併合に触れ「彼ら(朝鮮人)の総意で日本を選んだ」「どちらかといえば彼らの先祖の責任」「私は日韓併合を100%正当化するつもりはない」と発言しました。

この発言に対し定例記者会見で～都知事から回答を引き出しました。

そして11月2日の【関口宏】サンデーモーニングで「私は日韓併合を100%正当化するつもりはない」との発言を前後を削り語尾を編集して「私は日韓併合を100%正当化するつもりだ」と文字スーパー付きで報道。

また、定例記者会見で、毎日や共同通信が繰り返し質問した内容に対する都知事の回答も、氏自ら自発的に話したかのように編集。コメンテーターの発言も同調させた。

この事件について石原都知事サイドは、同日夜、関係者がTBSを訪れ、6日付で送付される抗議文の写しを局側に手渡した。抗議文は「意図的に映像、音声をねつ造した報道」とした上で、(1)謝罪・訂正番組の放送(2)謝罪文を新聞各紙に掲載(3)謝罪文を通信社に配信——することなどを求めています。

視聴者は、メディアからの情報を元に判断し、考えて、行動をします。しかし、そのメディアが意図的に誤情報や偏向した報道を流す事で、世論誘導や大衆操作を通して、政治や社会の枠組みを大きく変えてしまう危険性があるのです。今回のTBSの捏造報道は強く非難されるべきです。そして報道機関における社会的責任とは何かを考え、それを果たすべきだと信じます。

忘れていませんか？玄界灘の悲劇。

2003年7月2日 福岡県沖の玄界灘で、パナマ船籍で韓国の貨物船「フン・ア・ジュピター」が鳥取県境港市の巻き網漁船「第18光洋丸」に衝突、「**第18光洋丸**」が沈没、**1人死亡・6人行方不明**という事故がおきました。

また、その4日後の7月6日、同海域で上記の行方不明者を捜索中の水産庁の漁業取締船「からしま」に韓国貨物船「コレックス・クンサン」が衝突。「コレックス・クンサン」は逃走し、「**からしま**」沈没。**2等機関士1人が軽傷**を負いました。

さらに、16日、枕崎市の沖で、漁船が貨物船に衝突され、**船体の一部が破損**する事故がありました。

しかし、なぜか**マスコミ各社はこれらの事故を故意に黙殺し、何も無かったかのように報道**しませんでした。死者行方不明者7人を出しているにも関わらずです。

これに対し多くの人々がTBSなど報道各社に抗議しましたが、これに対するTBSの回答は「日本人、一億人のなかでそんなこと言ってきたのはあなた一人だけ!」「だったら、あなたがウチの番組に入って、番組つくればいいじゃないですか!」「ワタシ3ヶ月目なのでよく分かりません・・・」などでした。

この事件は、もし最初の報道が適切になされていたら、その後の事件は防げたかもしれません。

しかしTBSはそうした**人々の声を黙殺**しました。このような報道姿勢をジャーナリズムと呼べるのでしょうか？

みなさまはこうした状況にある日本の報道が、正常な状態にあると感じますか？

平成十四年七月二十五日(木曜日) 安全保障委員会議事録より抜粋
元日本経済新聞記者 杉嶋 孝氏の証言

私が北朝鮮に拘留中、情報機関のトップの秘書は、私に、日本の公安はざるのようなものだ、内調もよく似ているけれども、少しガードがかたい程度である、日本全体は、防諜関係からいって全く丸裸同然であると言われました。何たる屈辱かと思いつつ、私はじっとこらえて聞いておりました。

私の身柄引き取り交渉に進展が見えず、北朝鮮政府の態度に業を煮やした焦りからか、2000年6月21日にビョンヤンで記者会見を開き、北朝鮮政府に圧力をかけるという計画がございました。

そのとき、私の担当調査官は、日本の有力メディアが、とにかく一発記者会見をビョンヤンで開いてくれれば、我々はそれを受けて日本の政府に働きかけるということになっていくと言いました。私はびくびくして、私の帰国運動に名をかりた身の代金要求交渉を進めようとしている北朝鮮のお先棒を担っている日本の有力メディアはどこかと考えました。帰国後、そうした北朝鮮側の情報操作の受け皿が何とTBSだったことを、家内へのTBS外信部長岡元隆治氏の手紙で判明しました。

2000年6月21日夜、私がまだ北朝鮮で裁判も受けてなく、したがって有罪判決も下っていないのに有罪判決だと報道し、驚いた家内がTBSに問い合わせた手紙を出したのでした。TBSは、とんでもない誤報をして我が家庭を苦しめたばかりでなく、図らずも北朝鮮の情報操作に踊らされたことを暴露する結果になりました。同じ日の午前十時に予定されていたビョンヤン・人民文化宮殿での私の記者会見が急遽取りやめになったのは、恐らくTBSが私の身柄についての報道をするということによって北朝鮮側と話がついたということ、今にして合点がいく次第であります。

TBSのオウム・ビデオ問題

1989年秋、TBS「3時にあいましよう」はオウム真理教・麻原彰晃の水中クンパカを取り上げ、オウム批判の急先鋒だった坂本弁護士にも取材。10月26日、オウム幹部がTBSを訪れて抗議。未放映のビデオを見せるように迫り、放映中止。その後、幹部らは坂本弁護士と面会、11月4日に一家3名を殺害した。

以上の経緯は6年間表面化しなかったが、1995年10月、TBSが地検に坂本取材ビデオを提出し、19日に日本テレビが報道。TBSはこれを即日否定、96年3月11日発表の社内調査でも「ビデオを見せた事実はない」と否定。しかし、オウム幹部の供述が出たことから、3月25日に社長会見で認め、4月30日には「報道のTBSは死んだ」といわれた、TBSビデオ事件「検証番組」を放映した。

ワイドショー的には、ビデオをオウムに見せた事が一家殺害に繋がったから、オウム幹部来訪を公表又は通報すればサリン事件は防げたのではないかと非難された。しかし、問題の本質はTBSの報道倫理と報道姿勢にあったのではないのでしょうか？

TBSは、ある人物を取材したVTRを、放送前に、その人物に無断で、放送関係者以外の人物(本件では、被取材者と対立関係にある組織の関係者)に見せた事が、報道倫理に反し非難されるべき点であり、報道の公正さが損なわれた事に問題がある。また放送しなかったのは、ジャーナリストとしての不認識と怠慢が非難されるべきであり、自ら報道の自由を放棄した事になり、そのTBSに報道番組を制作し放送する能力はあるのでしょうか？

報道の自由を行使する者は、それに伴う社会的な責任を果たすべきであり、社会的な責任を果たせる企業に生まれ変わる事を望みます。